

試験研究課題: 酒造適性と収量性を向上させた新しい酒造好適米の育成と
安定生産技術の確立

新しい酒造好適米の田植えが始まりました

京都府独自の酒造好適米「祝」の収量性と酒造適性の更なる向上を目指し、生物資源研究センターが品種改良に取り組み、新しい酒造好適米の品種候補1系統を選抜しました。

当センターでは、品種候補の特性を最大限に発揮する栽培技術を確立するため、移植時期、施肥条件、栽植密度などの試験を実施しています。

施肥条件の試験は、ほ場を小さな区画に区切り、区画内に区画ごとに施肥量を変えて施用し、代かきを行ってから田植えを行いました。

今後、所内試験と現地試験の生育調査・収量調査などを行い、新しい酒造好適米の安定生産技術の確立を進めていきます。



区画内に肥料を均一に施用
(施肥条件の所内試験)



現地試験の田植え